第１回「千葉の特色を活かした水素の利活用に関する研究会」　結果概要

議事等

１　水素の利活用に向けた本県の可能性等について

（１）趣旨説明等

- 事務局から、委員紹介、本研究会の設立趣旨、開催スケジュール及び参考資料集について説明。

（２）基調説明

- 岡崎委員から、「水素導入の意義と利活用の今後の展開」について説明。
- 岡野委員から、「水素の利活用を進める世界の取組み」について説明。

（３）各出席委員等からの説明、意見等の概要*

○ 水素の利活用に関する取組等について

- 水素の利活用は、最初のステップとして家庭用燃料電池、燃料電池自動車の普及で進んでいる。本格的な水素エネルギー社会では水素の量的な拡大へと進み、水素の発電利用が大きなポイントと考えている。

- 水素の特徴は大量に貯蔵できる、長期間安定的に保有できる、輸送して利用できることである。水素そのものを単に使用するということではなく、水素の特徴を活かし、他のエネルギーとの組み合わせでシステムとして取り組むことが肝要と考えている。

- エネルギーの効率的な利用の大きなポイントに分散発電があると考えている。エネファームは電気と熱の総合効率９５％という高効率なコージェネレーション・分散発電機器であり、これを家庭用、産業用、業務用へと普及、拡大させていくことが重要であると考えている。

- 京葉臨海コンビナートの水素には、いわゆる製造の水素と副生の水素があるが、非常に効率的な運営、取組みが行われており、一般的に言われている、余っているようなことはなく、有効利用をしているのが実情である。これをどのように活かしていけるかが課題であると考えている。

- 燃料電池自動車「MIRAI」の累計注文状況の割合は、現在、法人が５４％、個人が４６％で、個人のお客様にも浸透してきたと感じている。現状１台１台ハンドメイドで生産し、水素ステーションがないところでは販売をしていない。水素ステーションの設置状況は、首都圏では相当数の設置が見られるが、北関東を越えると水素ステーションがなく、遠出ができない限られた車となっている。今後の課題は量

産技術を確立すること、そして、まだ普及台数が少なく大変であるが、水素ステーションを面として広げていかなければならないと考えている。今、メーカー三社（トヨタ自動車、日産自動車、ホンダ）で水素ステーションの運営支援を開始している。

● 再生可能エネルギーでつくる、持続的で安心安全快適な社会の実現が重要と考え、現在、再生可能エネルギーを由来とした地域分散型の水素利用、いわば、水素の地産地消の事業展開を、「つくる・貯める・使うシステム」として、組み合わせて取り組んでいる。

● 液化水素の製造拠点を全国の３か所に配置し、その販売を軸に取り組んでいる。水素ステーションの整備も液化水素で供給するステーションをメインに取り組んでいる。今後とも、水素ガスの安全かつ安定供給を進めていくことが重要と考えている。

● 業務用燃料電池は、エネファームや燃料電池自動車と異なり、業務用という面から経済性が重視されるが、燃料電池の特性を十分に理解して、導入、普及させていくことが重要であると考えている。

○ 研究会の検討方向及び取りまとめ方等について

● 需要サイド及び供給サイドの両面から検討を行うべきである。

● 単発で終わる方向性ではなく、ステップ・バイ・ステップで継続的に取り組む方向性を考えていくべきである。

● 水素の利活用に関する本県の役割、課題等を明らかにして、地域の課題解決や県内産業の振興へとつなげていくことが重要である。

● 千葉県の立地を踏まえ、関連の企業の方々を含めて、意見や協力を得ながら千葉県の特色を活かした水素の利活用に関する可能性や方向性を検討していくべきである。

＊：各委員等から発言のあった意見等を記載したものです。

２　その他

○ 第２回研究会の開催について

● 次回の研究会の開催日時、場所及び議事が決定した。

・日時　９月２５日（金）、１４時３０分～

・場所　京葉銀行文化プラザ

・議事　「千葉県で取り組む水素の利活用に向けて」